

OUHS

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES



大阪体育大学 体育学部／教育学部

UNIVERSITY GUIDE 2023

家族・保護者の
方は反対側から
ご覧ください。

本冊子は両表紙です

家族・保護者の方と一緒に考える
大阪体育大学への進学

UNIVERSITY GUIDE 2023

本物を学び、極める

 **大阪体育大学**

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

体育学部／教育学部

大阪体育大学 広報室 〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 TEL.072-453-7021 FAX.072-453-8818

ホームページ

<https://www.ouhs.jp/>



入試情報サイト

<https://www.ouhs.jp/nyushi/>



高校生の方は
反対側から
ご覧ください。

本冊子は両表紙です

本物を学び、極める

熊取キャンパス

競技別の6専用体育館、屋外施設、学修・研究施設が集中しています。
スポーツ専用施設の充実度は全国トップ級。▶21ページ～

スポーツに打ち込む。スポーツ科学を探究する。教える力を養う。
これらを極めていくプロセスは、あなたが秘める可能性を飛躍的に伸ばしていきます。
かつてあこがれていたあの人のようになりたい。尊敬するあの先生のようにになりたい。
充実したスポーツ施設、熱く親身な教員、スタッフ。あなたが夢をかなえるための本物の環境が、
大阪体育大学には整っています。

高校生向けのページ

- 03 大阪体育大学 4つのADVANTAGE
- 05 ADVANTAGE1 学び
- 13 ADVANTAGE2 就職
- 21 ADVANTAGE3 施設
- 27 ADVANTAGE4 クラブ
- 35 体育学部
- 37 体育学部 スポーツ教育学科
- 47 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科
- 57 教育学部
- 59 教育学部 教育学科
- 69 大学院
- 71 キャンパスカレンダー
- 社会貢献・地域交流・国際交流事業
- 73 アクセスマップ／住まい
- 75 LOVE YOUR SPORTS.

家族・保護者の方向けのページ (逆の表紙からご覧ください)

- 01 保護者×学長が語り合う
大体大での学びと成長
- 03 学生へのサポート
- 04 卒業後の進路
- 05 学費／奨学金

本冊子で紹介した学生の学年は2022年3月時点です

新型コロナウイルスへの感染対策を講じたうえで取材・撮影を実施しています。
一部の写真・記事は、コロナ禍発生以前のものを使用しています。

卒業生満足度 98%超の秘密

4 Advantages

大阪体育大学だからこそ手にできる 4 つの強み

学 び

就 職

施 設

ク ラ ブ

昨春、卒業生に実施したアンケートでは「総合的にみて本学に入学して良かったと思いますか？」との質問に、体育学部は98%、教育学部では99%が「はい」と回答しました。卒業生の高い満足度を支えているのが、本学が誇る「4つのアドバンテージ」。スポーツ科学と教える力を深く極める「学び」。手厚い支援で伸びしろを伸ばす「就職」。充実度全国トップ級の「施設」。高い志を持って切磋琢磨する「クラブ」。大体大の強みを紹介します。

NEW

教育学部に
幼児教育コースを
新設予定

2023年4月

※今後、開設時期等が変更になる場合があります。

▶ 詳細はP65、66をチェック



右へ開けてください キャンパス全景がご覧になれます。

01 学 び ▶ P.05

「スポーツ科学」と「教える力」を
深く学べるカリキュラム。
教員との距離の近さが際立ち、
「面倒見の良さ」が伝統です。

学生と教員の距離感が近く、親身な指導と「面倒見の良さ」が伝統です。

体育学部は3年次から、2学科とも各3コースに分かれて専門分野を深く学び、必修のゼミなどを通じて学生と教員が深く向き合います。教育学部は2023年度から幼児教育コースが新設される予定で（変更の可能性あります）、2年次から3コースに分かれ、特別支援教育コースをプラスして選択することもできます。

教育学部は9割超、体育学部も約7割が教員免許を取得するなど「教える力」を磨く環境が整っています。高い教員採用試験合格率につながっているほか、「教える力」は企業人、公務員としても必要不可欠の資質です。

学習支援室によるマンツーマン指導など、基礎学力の充実と各種採用試験の合格に向けた支援も充実。本学スポーツ局と連携し、クラブ活動との文武両道を守る体制も整っています。

02 就 職 ▶ P.13

教員採用現役63人、既卒96人合格。
消防官「全国1位」など公務員に強い。
企業の人事も高評価。
手厚いサポートが伸びしろを伸ばす。

教員の志望者は教職支援センターが、企業や公務員はキャリア支援センターが1人ひとりを徹底サポート。あなたの伸びしろをぐんと伸ばします。

公立学校の教員採用試験は元校長など多彩な教員、スタッフが面接指導などを徹底し、過去最多の63人が現役合格（令和4年度採用）。さらに、既卒者も96人が合格しました（3月末現在）。公務員試験は教養試験対策を基礎講座でみっちり積み、消防官就職率は令和2年度採用で全国1位（4.7%※）、同3年度で2位（4.6%※）。警察官就職率も全国上位です。企業では、人事担当者から「粘り強さ、リーダーシップ」など大体大生の高い評価が定着。実習やゼミ、インターンシップ、クラブなどを通じた人間形成が生き、きめ細かい支援で就職をバックアップしています。

※は東洋経済新報社刊「本気で強い大学2020、2021」

03 施 設 ▶ P.21

6専用体育館と多数の競技場が
1キャンパスに集中。
専用施設の充実度は
全国トップ級。

熊取キャンパスには競技別の専用体育館6棟と陸上競技場、サッカー場、ラグビー場、野球場、屋内野球練習場、テニスコートなどがそろう。スポーツ専用施設の充実度は全国でトップクラスです。スポーツと教育・研究のすべての施設が1キャンパスに集中、クラブ生にとって午後4時過ぎまで授業、その後すぐにクラブと、朝から晩まで1つのキャンパスで過ごせる点は大きなメリットです。身体を鍛え、ケアする施設もトップ級。最新鋭マシン約40台が並ぶS&C（ストレングス・アンド・コンディショニング）ルームは元プロ野球コーチが指導し、アスレティックトレーニング（AT）ルームの設備も充実。診療所の医師常駐も全国的に極めてまれます。

04 ク ラ ブ ▶ P.27

プロ・実業団に43選手。
日本代表級の指導者ら専門教員が
連日指導。

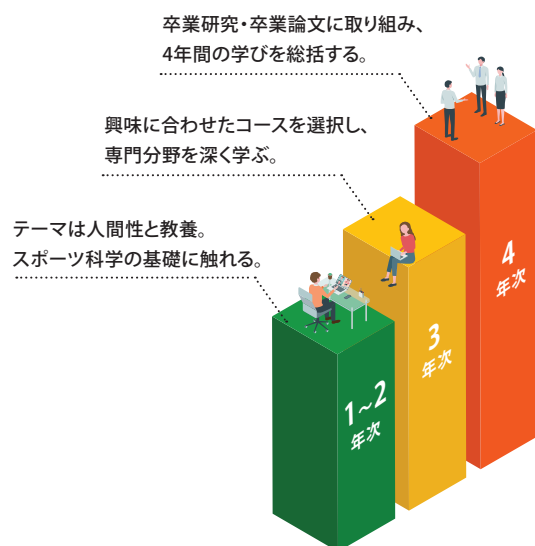
全学生の7割以上がクラブに所属。プロ・実業団に43選手がいました（令和2年度卒業生）。同じ志を持った友人との切磋琢磨で磨かれた人間力は、卒業後もあなたを支える重要な資質になります。また、日本代表など世界を舞台に戦ってきたクラブ指導者も多数在籍。強化クラブを中心に指導者の大半は専門の教員なので、競技力だけでなく勉学、生活態度にも目を配り、ほぼ連日指導。学生間や指導する教員と学生との間に強い人間関係が育まれます。全クラブの統括組織として、全国に先駆けてスポーツ局を創設。育成・強化に加えて、修学、キャリア形成、生活も支援しています。



専門性の高いカリキュラム

細分化されたコースごとに、多彩な教員から専門分野を深く学べる独特のカリキュラムは、さまざまな免許・資格や就職に直結。ゼミも必修で教員との距離の近さが際立ち、「面倒見の良さ」が伝統です。

学びの流れ



▶**体育学部**は、1～2年次は教養科目やスポーツ科学の基礎科目などを履修。スポーツ指導・マネジメントや教育に関する基礎知識・一般教養を広く学びます。3年次から、2学科とも各3コースのいずれかに所属。より専門的な授業を展開する各コースの応用科目は14単位と手厚く、専門分野を深く学べるのが特長です。各コースに多数の各領域の学問分野に精通した教員が配されている点も大きな魅力。教員が相互に連携を取り、一人ひとりの学生を手厚く指導し、さまざまな免許・資格の取得や卒業後の幅広いフィールドにつなげます。また、ゼミが必修である点も特長で、教員がクラブ活動を指導する本学の特性も含めて、学生が教員と深く向き合う環境が整っています。

▶**教育学部**は、2年次から小学校教育、保健体育教育、新設予定の幼児教育の3コースに分かれて、豊かな教養や確かな指導力を身につけた教員の養成をめざしています。さらに、特別支援教育コースを3コースにプラスして選択可能。インクルーシブ教育の深い知識を備えた教員をめざすことが可能です。

(学科とコースによって受講できる科目が異なります)



キャンパスを飛び出して学ぶ

半世紀を超える歴史があるスキー、臨海などの野外活動実習、プロスポーツや学校、スポーツ現場の最前線に立つインターンシップや実習。キャンパスの外に飛び出し、自然や実社会の場で人間力やリーダーシップを鍛えます。

野外活動実習

▶**体育学部**には、1年次に長野県で4泊5日のスキー実習、ヨットやカヤックに挑戦する海洋スポーツキャンプ実習、登山やテント生活、野外炊飯に取り組むキャンプ実習や、臨海、ゴルフ実習の5つの野外活動実習があります。

▶**教育学部**には夏季(海洋・キャンプ)と冬季(スキー)の野外活動実習があります。

本学はスポーツの指導者や教員をめざす学生が多く、野外活動実習は、必要な資質であるリーダーシップやコミュニケーション能力、人間力を養う場として重要です。自然の中で集団生活を送ることで、技能を高めるとともに豊かな人間関係を築きます。

技術の指導を現地の指導員に任せず教員が行うことも特長です。学生と教員は教室だけではわからない互いの側面を知ることができ、より強い絆が生まれます。

インターンシップ・実習

▶**体育学部**では、インターンシップの派遣先は、Jリーグやプロ野球の各球団、スポーツ施設、企業、野外活動施設、体育協会、学校など多彩。実習も、学校現場で部活動などに参加するコーチング実習などがあります。インターンシップは就職活動の一環としても別に実施されていますが、授業の一環として必要な知識やマナーを事前に学んで臨みます。終了後はレポートをまとめて体験のプレゼンテーションやグループディスカッションをするなど、体験を通じて「学び」を得る場になっています。

▶**教育学部**では、3、4年次の教育実習に備えて、2年次に学校インターンシップを経験する手厚いカリキュラムが組まれています。



インターンシップ

※感染症対策のため、一部変更になる場合があります。



教える力を磨く

大阪体育大学では、「教える力」を徹底して磨きます。公立学校の教員採用試験で過去最多の63人が現役合格するなど、多数が教員の道に進みますが、企業人、公務員としても後輩や部下を教え、指導する力は将来を切り拓く重要な資質。指導力や統率力を高める環境が本学には整っています。

教育学部は定員125名の少数精鋭。指導のきめ細かさが最大の特長です。20名の専任教員を含む55名の教員が少数の学生を一人ひとり、徹底指導します(2021年度)。専任教員20名中半数以上の11名は、小中高校や特別支援学校のほか教育委員会など学校、教育現場で手腕を発揮してきました。うち5名は校長の経験者です。現場経験に精通した教員が、面接や模擬授業、小論文などを徹底指導し、現場の経験を踏まえた実践的なノウハウを伝えている点が、合格者が多い理由です。カリキュラムは教員免許の取得に必要な科目中心。集中して教員になるための科目を勉強できます。

体育学部も教職に関する専門科目で生徒指導を視野に入れた授業が多く展開され、卒業生の約7割が教員免許を取得します。実技でも、バレーボールⅡ、サッカーⅡなどは実技の指導法を習得します。クラブ活動では後輩や仲間を指導する力やリーダーシップが磨かれます。

また、本学は社会貢献センターや各教員が取り組む「子ども運動教室」「キッズボーヤーズ」「わくわくアダプテッド・スポーツクラブ」などのボランティア、イベント活動が多彩で、学生は大学内で子どもへの接し方、教え方を実体験として学ぶことができます。



マンツーマンの学習支援体制と文武両道

大阪体育大学の学びのシステムで強みの一つは、学生の目標や学力に応じてマンツーマンの個別対応に取り組む学習支援室(ラーニングコモンズ)の存在。スタッフは学生と二人三脚でキャリア形成に必要な学力支援に取り組み、将来の夢の実現を強力にサポートしています。また、文武両道を目指してクラブに所属する学生を対象にした学習支援も実施し、大学スポーツ協会(UNIVAS)から「学修支援に関する優秀取組賞」部門で最優秀賞を受賞しました。

学習支援室は基礎学力の充実支援と、キャリア形成に必要な学力支援を目的に、常勤、非常勤のスタッフが11名在籍。夏休みも含めて交代で常時、待機しています。学生は予約なしで来ても、様々な相談やサポートを受けることができ、各種試験の過去問、参考書がそろっています。

最大の長所はスタッフが学生とマンツーマンで接する個別対応。各種採用試験の合格や企業のSPIテストなどに向けて、それぞれの学力と目標に合わせた個別の学習プログラムを一緒になって作ります。

企業や公務員を目指す学生を支援するキャリア支援センター、教員志望の学生をサポートする教職支援センターと連携。放課後のクラブ活動と両立できるよう昼休みに、筆記試験対策の公務員・教員一次試験対策講座を開催。筆記試験で苦手な人が多いとされる数的推理、判断推理も数学の

講師がしっかり指導します。小論文指導、春休みなどの集中講座もあります。

壁に当たったり、悩んでいた、学習がうまくいかない学生の気持ちに早く気づきアドバイスできるよう、両センターとの情報共有にも努めています。公務員試験などに合格した先輩がピアチューター(学生チューター)として後輩の学習相談に応じる制度もあります。

また、クラブ活動では、年間修得単位が基準を下回った場合、次年度前期の試合出場を禁じて学習支援室での学修を義務付けています。学習支援室では、基準を下回ることもないように、基礎学力の向上を中心とした学習のサポートも行い、文武両道を実践する環境を整備しています。

(感染症対策のため、一部変更になる場合があります)

教員研究紹介

スポーツ傷害予防と
競技パフォーマンス向上をめざし、
現場指導と研究の双方に
取り組む。

体育学部
教授 下河内 洋平

スポーツ傷害のメカニズムを解明し、
その予防と競技パフォーマンス向上を
サポートする。

本場アメリカでアスレティックトレーナーの勉強に取り組むうち、競技パフォーマンスと傷害の関係性について興味を持つように。膝関節前十字靭帯損傷など、主に下肢関節の急性スポーツ傷害のメカニズムやその予防、危険因子について研究しています。前十字靭帯損傷は、着地動作などにおいて、接地後約0.04秒程度という短時間で生じると考えられています。そのため、傷害予防には、地面からの衝撃を小さくすることや、衝撃を受ける方向が身体に対して安全であることが非常に重要です。一方、競技において、より素早い踏切や高い跳躍には、強い衝撃や無理な方向からの衝撃が伴うため、一般的には傷害予防と競技パフォーマンス向上の両立は難しいと考えられています。競技者は後者を優先する傾向にありますが、私はこれらの両立をめざし、体力・筋力測定やモーションキャプチャーなどの手法を用いて、研究を進めています。

スポーツ傷害予防と競技パフォーマンス向上の
共通点と相違点を明確にすることも研究テーマの一つ。

最近、前十字靭帯損傷を引き起こすような特徴を有した選手は一部の競技パフォーマンスが低い傾向にあるという検証結果が出ました。これは、傷害予防のための介入が、競技パフォーマンス向上にもつながる可能性を示しています。スポーツ科学とスポーツ医学を融合したこの研究は、競技者・トレーナー・理学療法士・鍼灸師などスポーツに関わるすべての人に有用な知見を提供できると考えています

現場指導と研究を両立することで、
その両方に良い影響が生まれる。

本研究室では、ハンドボール部のトレーニング指導や科学的サポートを行うことにより、スポーツ科学と現場の橋渡しを行っています。実験室での研究成果をスポーツ現場に還元し、スポーツ現場から新たな研究テーマを生み出すという好循環が生まれました。競技においても、全日本インカレ8連覇、日本選手権2年連続準優勝といった結果に貢献しています。

Profile

2003年から2006年まで米国のUniversity of North Carolina at Greensboroにおいてアスレティックトレーナーとして選手のケアやリハビリテーション指導と学生アスレティックトレーナーの教育を行う。2008年から2011年まで大阪体育大学ATルームで選手のケアやリハビリテーション指導などを行う。また、2006年にUniversity of North Carolina at Greensboroにおいて運動・スポーツ科学分野のスポーツ医学・アスレティックトレーニング専攻において博士号を取得し、国内・国際学術誌や国内・国際学会において継続的に学術論文の出版や学会発表を行っている。

教員研究紹介

スポーツのファンの増加、
ビジネスとしての活性化を、
マーケティング戦略で実現する。

体育学部
教授・学長補佐 藤本 淳也

スポーツマーケティングの研究は、
根拠をもってスポーツ現場の課題を
解決する。

1984年のロサンゼルスオリンピック開会式に衝撃を受け、スポーツマネジメント研究の分野へ。主にJリーグやラグビーのスタジアムでのアンケート調査や、WEB・SNSでの調査を実施し、地域・年齢・ファンの度合いなど、属性ごとに特性やニーズを分析。チームへのロイヤリティ向上（ファン化の促進）につながる要因や、行動に影響する要因の解明をめざしています。例えば、ファンの一部に新たな呼称（〇〇女子など）が生まれると、そこに新しいマーケットが誕生し、それに合わせたマネジメント戦略がスタジアム動員数やグッズの売上の増加に直結します。昔は、研究の意義や活用性について現場の理解を得られないこともありましたが、実績の積み重ねやゼミ生の活躍などにより、現場の方々とコミュニケーションをとりながら研究が進められるようになりました。

集客に悩む地域社会のイベント活性化に役立つ。

今後は、マイナースポーツ業界でも研究をすすめ、スポーツを活かした地域社会の活性化に取り組みます。また、大学スポーツ振興を担う組織UNIVASでは理事の一人として、大学スポーツ分野の価値向上に尽力しています。

Profile

1965年宮崎県生まれ。鹿屋体育大学卒業、同大学院体育学研究科修了。1993年に大阪体育大学助手。イリノイ大学客員研究員、フロリダ州立大学客員研究員を経て現職。日本スポーツマネジメント学会理事。大学スポーツ協会（UNIVAS）理事。大学スポーツコンソーシアムNANSAI副会長。関西経済連合会「関西スポーツ振興推進協議会」委員。著書は「スポーツマーケティング改訂版」（大修館書店、2018年、共著）、「スポーツ産業論入門第7版」（杏林書院、2021年、分担執筆）など。

教員研究紹介

心理支援を通じて
アスリートのパフォーマンス向上を
図るとともに、グッドコーチを育成し、
スポーツ環境の改善に取り組む。

体育学部

教授・学長補佐 土屋 裕睦

カウンセリングだけでなく、
試合で実力を発揮するための
メンタルトレーニング、
チームビルディングなどの指導を行う。

トップレベルの小・中・高校生選手、日本代表チームやプロのアスリートなどを対象に、スポーツメンタルトレーニング上級指導士として、イメージトレーニングなどの心理的手法を用いた支援を行っています。アスリートは悩まずポジティブであれと言われがちですが、人間であるからには悩みに直面するのが当たり前です。支援のポイントは単純な解決策の提示でなく、寄り添って一緒に考えること。悩みを受容し、成長の糧にできたアスリートはとても強く、人生を前向きに切り開いていきます。日本代表チームは競技種目に関わらず、チームワークなどの心理面で海外の選手を圧倒する事例があるので、現在の支援・研究がオリンピックでの活躍に活かされることに期待しています。また、ほかにはコロナ禍の心理的影響について調査し、メンタルサポートを行っています。

文部科学省の受託研究

“グッドコーチ育成のためのプロジェクト”

中学や高校の部活動の現場などに出向くと、監督やコーチから選手の指導法に関する悩み相談を受けることがあります。選手への期待のあまり不適切な指導に陥る例もあるようです。グッドプレイヤーだけでなくグッドコーチを増やすことで、日本のスポーツ環境をさらに良いものにしたいと考えています。

Profile

大阪体育大学教授、学長補佐。筑波大学大学院修了、博士(体育科学)。公認心理師、スポーツメンタルトレーニング上級指導士。日本オリンピック委員会科学サポート部門員としてトップアスリートへの心理サポートを担当。日本スポーツ協会コーチデベロッパーとして公認コーチの育成にも携わっている。日本スポーツ心理学会副会長。

教員研究紹介

教育の現場での経験と視点から
見えてくる課題解決に取り組む
教育における基準を変えたい。

教育学部

教授 岡崎 均

コロナ禍で急加速した
教育現場でのICT活用と
教科書のデジタル化。

小学校教員として学校の教育現場を見てきた経験をいかしながら、学校教育におけるICT活用・デジタル教科書の開発研究に取り組んでいます。特にこの2年間、コロナ禍の影響で教育が大きく変わりました。PCやタブレット端末を使った授業展開が急速に進んでいく流れを目の当たりにしてきましたが、実際の教育現場では、その流れについていきながらも、まだ模索している状態が続いています。そのなかで、広く普及されはじめてるのが「デジタル教科書」。私の研究テーマとしても取り上げていますが、教科書というのは、国の教科書検定基準によって検定され、現時点での検定基準は紙媒体であることから、教科書そのものをデジタル化するだけで、タブレットPCにある紙媒体と異なる有効性をいかにすることができていないと感じています。

これからの課題と教育現場の到達目標。

社会科の教科書1つにしても、紙媒体だけでは限界を感じています。だからこそ、教科書のデジタル化をおこない、解説動画や音声などを組み込むことで、子どもたちの理解度や習熟度を高めることができると考えます。ほかにも、問いに対する答えや補足情報などをプロジェクターにタイムリーに共有するなど、ICTを活用することで質の高い授業を展開できると期待されます。これらの研究開発や授業実践の実績が、新しい教育の扉を開いていくと考えています。

Profile

愛媛県の公立学校教員として35年勤務。教頭、校長を経て2015年より大阪体育大学へ。社会科教育、ICT教育、歴史教育を専門領域とし、社会科デジタル教科書・教材の開発やICTを活用した授業開発に取り組む。博士(学校教育学)。